

肝硬変とその合併症の治療

埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科

今井 幸紀

今日は肝硬変と、その合併症の中で重要な食道胃静脈瘤と腹水の治療について解説いたします。

1. 肝硬変

肝硬変は肝炎を長期間繰り返した結果、肝臓に線維が増え、肝臓全体がごつごつと固くなった状態をいいます。原因としてはB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、アルコール、自己免疫性肝炎などがあります。わが国ではC型肝炎ウイルスによるものが最も多く、全体の約7割を占めます。肝硬変になりますと、肝細胞の数が減ることと、肝臓の血流が悪くなることから、肝細胞の働きが弱まり（肝細胞機能低下）、また門脈という血管の血圧が上がります（門脈圧亢進）。肝細胞機能の低下によって黄疸、むくみ、出血傾向（血が止まりにくくなる）が起こり、門脈圧亢進によって食道胃静脈瘤の発生や血小板の減少が起こります。また両者が原因となり腹水と意識障害（肝性脳症）が起こります。

2. 食道胃静脈瘤

食道胃静脈瘤は食道や胃の静脈がもこもここと膨らんで、瘤のようになった状態をいいます。肝硬変の方の約7割に合併します。静脈瘤があると問題なのは、それが発達すると破裂して、消化管の中に大出血することがあることです。その結果、吐血や下血が見られたり、体から血が不足して起こるめまい、ふらつき、意識消失などの症状が起こります。吐血すると慌てて来院する患者さんは多いのですが、下血だけの場合は発見が遅れます。食道や胃から出た血は腸に

流れ、その後便とともに出ますが、このときは血とわかる赤い色でなく真っ黒になるということを知っておく必要があります。食道胃静脈瘤は体の外からは見えませんので、その診断には内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）を受ける必要があります。静脈瘤は破裂すると、現在でも約 2 割の方は死亡しています。破裂した場合は直ちに治療を受ける必要があります。また内視鏡検査で破裂する危険があると診断されたら、予防的に治療を受ける必要があります。食道胃静脈瘤治療の専門医のいる医療機関で診断、治療を受けることをお勧めします。

食道静脈瘤に対しては内視鏡的治療が第一選択となり、硬化療法と結紮術という 2 つの方法があります。ともに手術ではなく、内視鏡を飲みながら受ける治療で、通常 2~3 週間の入院で済みます。患者によって適した方法が選択できるように、2 つの方法とも施行できる医療機関で受けることが望ましいです。胃静脈瘤については、内視鏡的治療とカテーテルを用いた治療があり、そのタイプによって適した方法を選択する必要があります。これらの治療が出来るのは、さらに専門性の高い病院に限られます。いずれの治療を受けた後も、原因となった肝硬変は持続しているので、静脈瘤が再発する可能性はあり、内視鏡による定期検査の継続は必要です。

3. 腹水の治療

肝硬変に合併する腹水は、門脈圧の亢進と血液中のアルブミンという物質の低下（低アルブミン血症）によって起こります。2 つの原因により血管内の水分が血管外に漏れやすくなります。おなかの中（腹腔内）の胃腸の周りに水が溜まったのが腹水です。同時に皮下にも水が溜まるむくみ（特に下肢のむくみ）が出やすくなります。腹水が貯留するとおなかが張って苦しくなります。また肝硬変と診断されている方が、急激に腹囲が増大したり、体重が増加した場合は腹水の貯留が考えられます。

腹水の治療はまず、安静と塩分制限が基本となります。塩分は1日3～5gに制限します。これだけで腹水が減少しないときや、腹水が大量の場合は利尿剤を使用します。これらの治療で改善しない場合や副作用のために利尿剤の増量が出来ない場合は難治性腹水ということになります。このときはおなかに針を刺して腹水を排液することもあります。腹水の貯留に加えて、発熱、腹痛、下痢が起こった場合は細菌の感染による腹膜炎の可能性があり、腹水中の感染を確認した上で抗生物質を使用します。

腹水が溜まらないように予防するには、塩分摂取を控えること（1日7g以下）と血液中のアルブミンを保つことが重要です。血液中のアルブミンは肝臓で合成されますが、肝硬変が進行すると、徐々に血液中のアルブミンが低下します。この場合は特殊アミノ酸製剤という薬を服用します。食事は高タンパク食が基本ですが、肝性脳症があったり血液中のアンモニア値が高い場合はタンパク制限が必要となりますので、主治医に確認してください。

最後に、これら肝硬変の合併症が起こらない、あるいは再発しないようにするためには、肝硬変の原因となっているものを取り除き、肝臓の炎症をなるべく抑えることが重要です。

禁酒の継続の他に、B型肝炎とC型肝炎では肝硬変にも抗ウイルス療法の適応が広がっていますので、以前肝硬変と診断されている方でも、最適な治療法について主治医の先生と相談なさってください。